

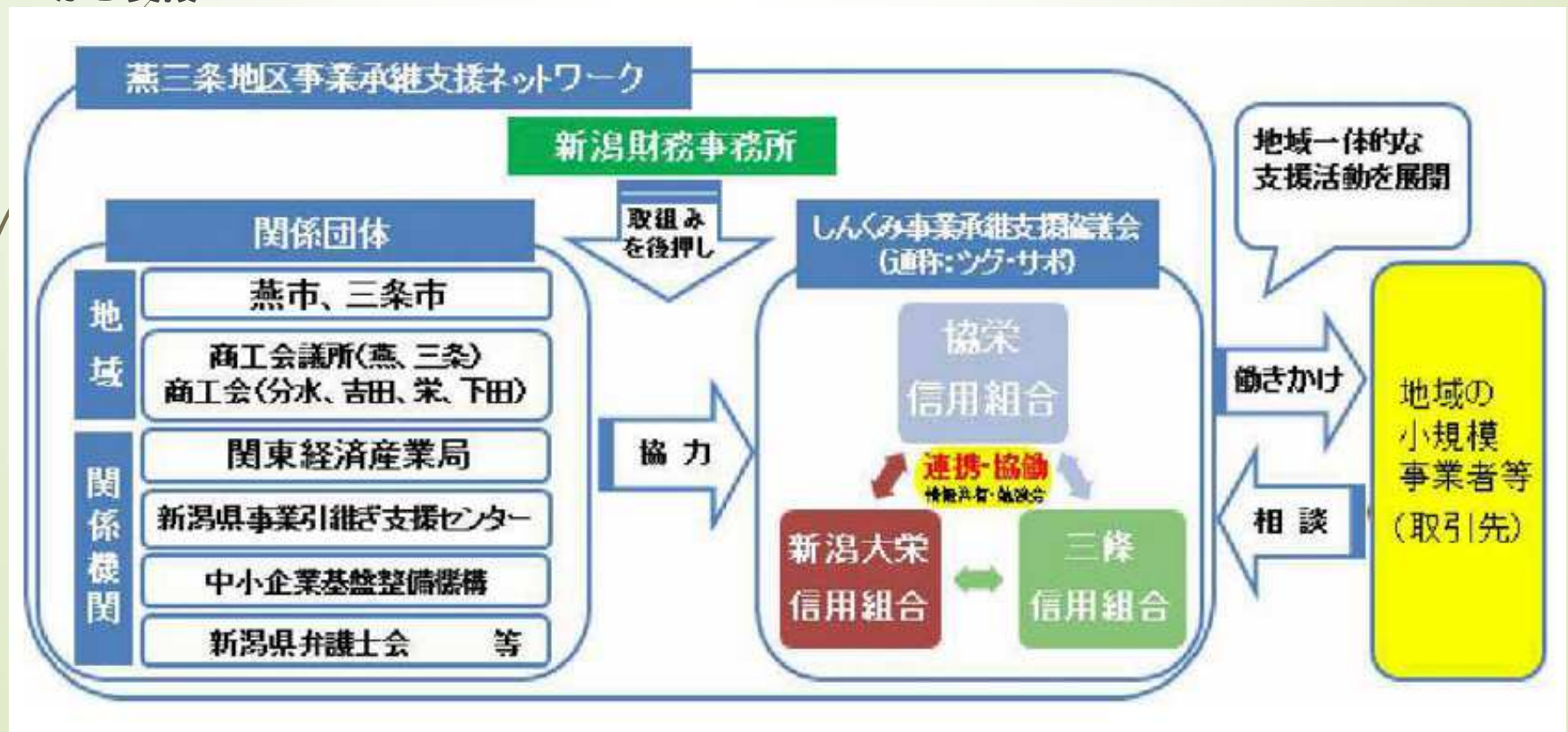
各地の事業承継支援施策（連携事例）

- ➡ 【新潟県燕市・三条市】燕三条地区事業承継ネットワークしんくみ事業承継支援協議会（ツグ・サポ）
- ➡ 【神奈川県川崎市】 KAWASAKI事業承継市場
- ➡ 【宮崎県延岡市】延岡スタートアップ支援センター
- ➡ 【福島県西会津町】西会津町事業承継協議会
- ➡ 【東京都墨田区】 HANDS
- ➡ （参考）【京都府京田辺市】商工業者の増加

燕三条地区事業承継ネットワーク

しんくみ事業承継支援協議会（ツグ・サポ）

- 協栄信用組合、三条信用組合、新潟大栄信用組合が新潟財務事務所の後押しにより「燕三条地区事業承継支援ネットワーク」を発足（平成28年8月26日）
- 「しんくみ事業承継支援協議会（ツグ・サポ）」は上記ネットワークの実働部隊
- 単独の信用組合では限界があった事業承継支援について、ネットワーク関係機関と連携しながら支援



KAWASAKI事業承継市場

- 平成29年、川崎市、川崎市産業振興財団、川崎市商工会議所、川崎信用金庫の4者で創設。外部機関との連携を通じて、市内企業の事業承継支援を本格化。
- 支援対象企業が直面する課題を的確に把握し、多面的な伴走支援へとつなげるため、複数の専門家や支援機関との連携をコーディネートする支援人材が重要との認識のもとで「伴走支援コーディネータ」の確保・育成に力をいれている。現在は8名がチームとなり活躍。



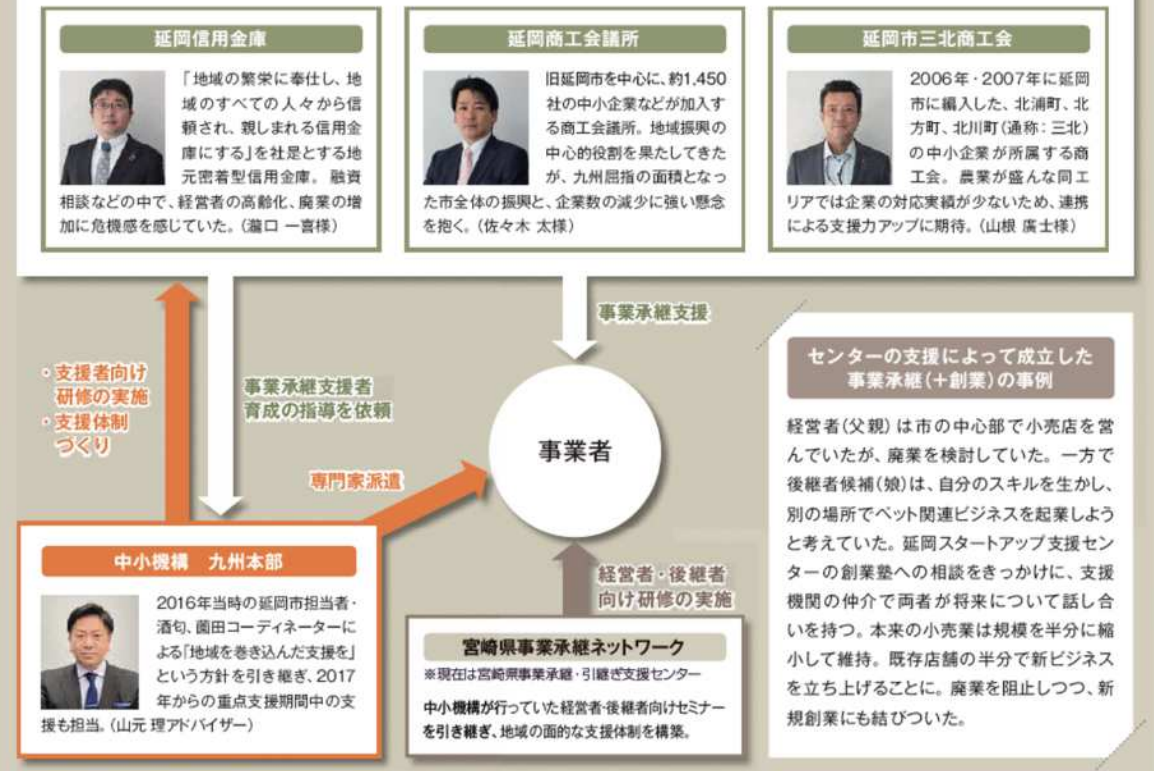
延岡スタートアップ支援センター

- 延岡商工会議所、延岡市三北商工会、延岡信用金庫の3者の連携で立ち上げ（平成26年）。
- 管内の企業情報を集約した結果、経営者の高齢化、後継者不足、廃業件数増加が危惧されたことから、2016年4月より「事業承継支援」の推進を決定。2017年から事業承継支援に取り組んでいる。
- 構成機関職員のスキルを高めるための研修を実施し、1企業1サポーターの伴走型支援を行っている。

延岡スタートアップ支援センターの組織構成と連携の概要

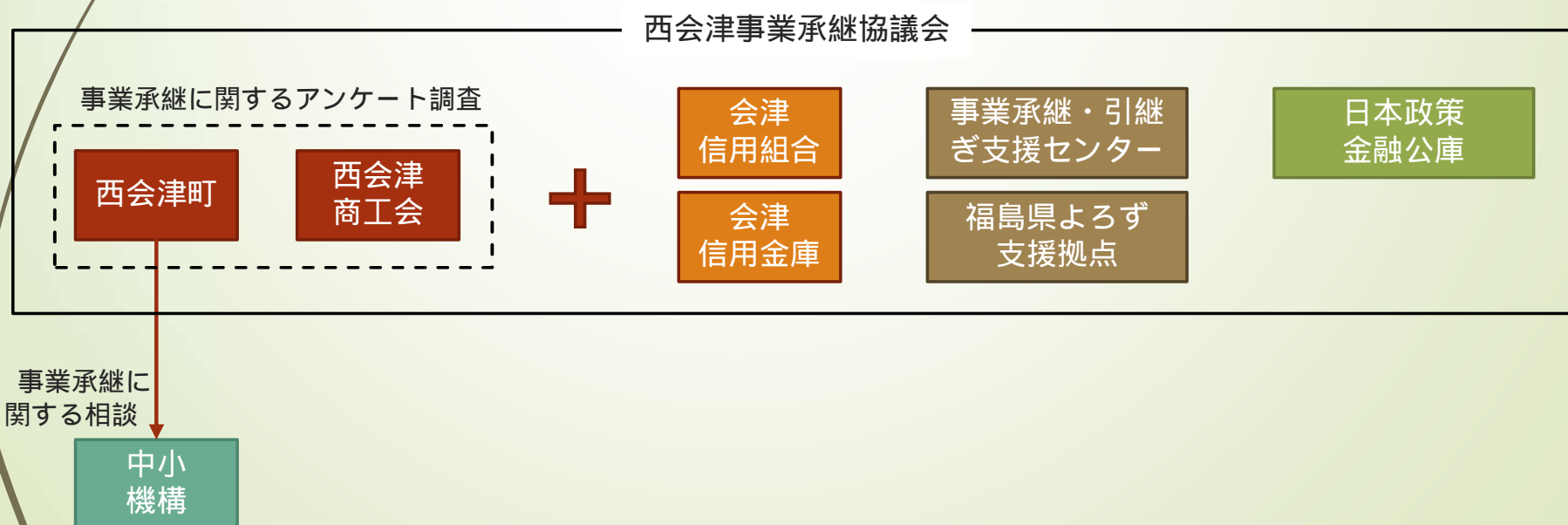
2014年、延岡商工会議所・延岡信用金庫・延岡市三北商工会の3機関連携事業として地域経済の活性化を目的とした「延岡スタートアップ支援センター」が発足。管内の企業情報を集約した結果、経営者の高齢化、後継者不足、廃業件数増加が危惧されたことから、2016年4月より「事業承継支援」の推進を決定。2017年から事業承継支援に取り組んでいる。

延岡スタートアップ支援センター



西会津町事業承継協議会

- ➡ 西会津町、西会津町商工会に、会津信用組合、会津信用金庫、福島県事業承継・引継ぎ支援センター、福島県よろず支援拠点、日本政策金融公庫が加わり発足（令和5年12月）
- ➡ 同町における事業承継支援体制構築の主担当は商工会が担うことになった。
- ➡ 商工会が協議会やセミナー等の運営を担い、町は予算面と広報面でバックアップを行う。



HANDS

- 東京東信用金庫、東信用組合、中ノ郷信用組合、第一勧業信用組合、墨田区は、互いに連携しながら区内中小企業のさまざまな経営課題解決に向けて協議・協力する場である
"HANDS"（ハンズ）を結成。
- 「信用金庫」や「信用組合」という業態の枠を超えて協力する仕組みを構築し、墨田区内の中小企業に対する支援活動の高度化・効率化を目指す。

『HANDS』：協議・協力の場の愛称。4つの金融機関の名称の頭文字と墨田区の「S」を並べたもの。東京東信用金庫が事務局。

【取組内容】

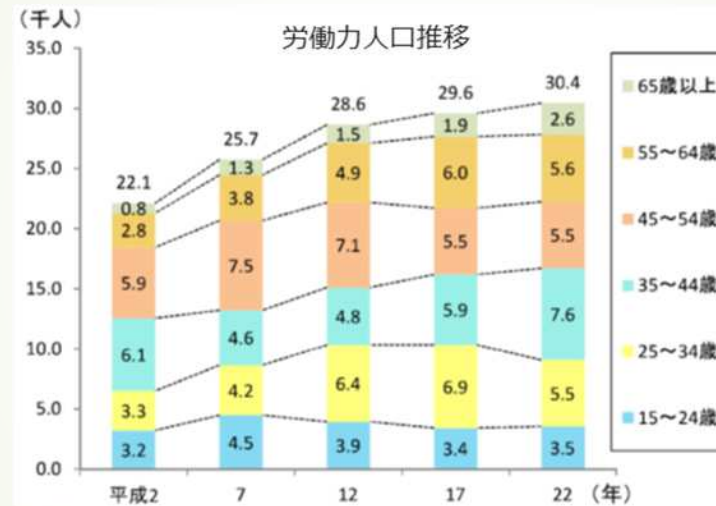
- 後継者不在の中小企業への支援の実施
 - ⇒今般、中小企業の休廃業・解散件数は増加傾向にあり、価値ある中小企業の廃業に歯止めがかからず、地域における雇用や技術が失われてしまう。
 - ⇒従来の法律・税制・補助金といった施策だけではカバーしきれない事業者に対して、金融機関や地域の枠を超え、後継者不在の事業者と事業の譲り受けに意欲のある事業者との円滑なマッチングを推進。
 - ⇒事業承継だけにとどまらず、さまざまな経営課題解決に向けて、伴走型支援を強化。



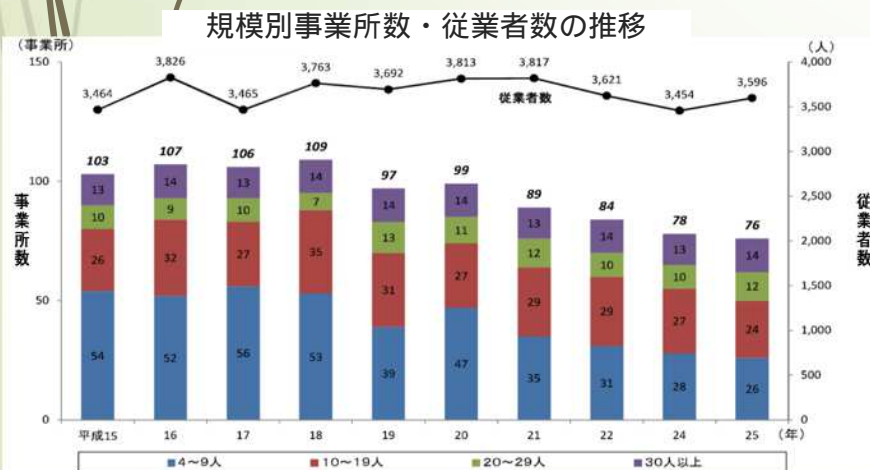
【参考】商工業者の増加（京都府京田辺市）

【R5.5.22 京都新聞】

- ・商工会会員数は、過去5年間で約190人増えて1,193人となった
- ・増加率（19%）は府内商工会の中で2番目（トップは京長岡市の31%）
- ・近年は、企業のハードルが下がっていることに加え、京都市内、大阪、奈良に近い利便性が大きいのではないかと（商工会担当者）



順位	業種別構成比	
	業種	構成比
1位	製造業	19.7%
2位	医療、福祉	17.0%
3位	卸売業、小売業	16.7%
4位	教育、学習支援業	10.1%
5位	宿泊業、飲食サービス業	9.5%
6位	運輸業、郵便業	6.3%
7位	サービス業(他に分類されないもの)	4.7%
8位	生活関連サービス業、娯楽業	4.2%
9位	建設業	4.0%
10位	不動産業、物品賃貸業	3.0%
-	その他	4.7%



【メリット】 京田辺市産業振興ビジョン（平成28年）

- ・京阪和道、第二京阪、京都縦貫道など、物流環境が充実している
- ・ロケーションが交通の要所。関西においてどこへ行くにも便利で効率が良い。
- ・子育て環境が充実しており、従業員の居住環境として良い。

【デメリット】 京田辺市産業振興ビジョン（平成28年）

- ・バスの便が非常に悪く、従業員の通勤が不便。
- ・パート・アルバイトが集まらない。市内在住者はなかなか応募がないので、周辺市町まで広げて募集している。
- ・来客を接待できる店がない。海外からの来客を接待するときは京都市内まで行っている。
- ・宿泊施設がないので、出張者は京都か大阪のホテルに泊まっている。